

1 本年度の学校評価をふりかえって

自らの学びを調整する力や自己指導能力、そしてキャリア教育における基礎的・汎用的能力を育むことにより、学校教育目標に掲げている「自立した人材」を育成するため、成長を促してきた。将来生きて働く社会人基礎力を踏まえて、生徒は「大人」としての資質・能力を身に付けることの大切さを自覚しており、保護者の理解も得られている。一方で、「大人」としての行動をとるには課題も見られ、多くの生徒が「主体性」「実行力」「発信力」などといった面が不足していると感じている。生徒自身が実感しているこれらの課題を、身に付けるべき資質・能力の重点として、全ての教育活動においてねらいを明確にして成長する機会を設定したい。また、地域協働活動（ビダイフデザインラボ）により、自らの専門性を生かしながら様々な「ひと・もの・こと」と関わり、社会課題に対して主体的に解決しようとする意識を高めることで、行動力や社会性を育みたい。来年度も、アートを学ぶことを通じて「人間性を高める」というゴールを共通理解し、おれない教育活動を展開したい。

2 評価結果の概要

分野	評価項目	取組状況と成果・課題	評価	改善策
教育課程・学習指導	自己有用感を育む教育活動の工夫	<ul style="list-style-type: none"> 秋田公立美術大学や各種機関、地域と連携するなど、本学院の特徴を生かした教育プログラムを推進し、生徒の自己有用感の高揚を図ることができた。また、ICTを効果的に活用した学習活動を推進することができた。 ユニバーサルデザインを意識した指導の一層の充実が必要である。また、自らの学びを調整する力を育むことで、基礎学力の定着を促したい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ユニバーサルデザインを意識した指導およびICTを活用した指導の充実を図るため、各教科ごとに具体的な支援の在り方を考え実践する。 課題の解決のために計画的に学び、一連の活動を振り返る学習サイクルを設定する。学習の過程や結果を価値付けることで自己理解を促し、主体的に学ぶ力を育む。
生徒指導	いじめ防止の取組の充実	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の内面把握のため、年3回のいじめアンケート調査や生活意識調査を活用し、早期対応と少人数を生かした個別支援を進めた。 他校の情報や研修内容を全教員で共有し、指導環境の変化にも対応した。複数教員での見守りや各種調査により、いじめの早期発見に努めたが、人間関係づくりにつまずく生徒もあり、今後も一層の配慮が必要である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 定期的なアンケートだけでなく発達支持的生徒指導に基づく日常的な関わりや個別対応を通じて、生徒一人一人の状況に寄り添った支援を保護者と連携して行う。 疎外感やからかい等も含めて小さな芽を見逃さずに早期対応に努め、生徒が安心して学校生活を過ごせる環境作りを充実させる。
進路指導	主体的な進路選択を目指す計画的・組織的な進路導	<ul style="list-style-type: none"> 秋田公立美術大学連携授業や職業理解ガイダンスなど、計画的に講座や講話を実施した。また、進路行事へ保護者の参加を促し、web版「進路指導便り」等を通じて情報提供に努めた。 学年部との密な連携により、個別最適な支援ができた。主体的な進路意識を高めてキャリアプランニングにつなげるとともに、全体指導から個々への具体的な支援に発展させることが課題である。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 主体的な進路意識の醸成や自己理解の促進、基礎的・汎用的能力の育成のために、講座等の実施前に「めあて」を提示し、事後の振り返りを引き続き行う。 学年部や家庭と連携したキャリアプランニングのため、情報提供や支援を更に強化する。
家庭・地域との連携	社会性を育む地域協働活動（ビダイフデザインラボ）の推進	<ul style="list-style-type: none"> 実際に使われるポスターの制作やボランティア等、美術やデザインの力を生かした多様な活動を行うことができた。 地域・社会との接点をもつ中で、主体性や自己有用感を高めることができた。また、将来の職業への展望をもち、適性について感じることもできる貴重な機会となっている。 作品を制作する活動を通じて、社会性とともな造形的表現力を育成する視点を大切にすることが課題である。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「生徒の成長に資する活動」という点を踏まえ、「活動を通じて生徒のどのような能力を高められるか」を焦点化して計画する。 デザインの活動では、依頼主との協働により、生徒の社会性を育む場面を充実させるとともに、制作過程における指導を充実させることで、生徒の造形的表現力を高め、作品のクオリティの確保を目指す。